

構造設計標準仕様

● 図面、特記仕様書及び現場説明書に記載されてある事項以外は「国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築工事共通仕様書」最新版に準ずる。但し本工事に関係ない事項は適用しない。

適用は●印を記入する。

1. 建築物の構造内容

(1) 工事名称

村松浜集落センター新築工事

建築場所

新潟県胎内市村松浜1199-2

(2) 工事種別

■新築

☐増築

☐増改築

☐改築

(3) 構造種別

■木造 (W)

☐鉄筋コンクリート造 (RC)

☐鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC)

☐プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)

☐補強コンクリートブロック造 (CB)

☐壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)

☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)

☐鉄骨造 (S)

☐鉄骨コンクリート造 (WRC)

☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)

(4) 階数

地下 0階

地上 1階

塔屋 0階

(5) 主要用途

集会場

(6) 屋上付属物

☐広告塔

☐高架水槽

KN

☐

☐

☐煙突

☐キューピクル

KN

☐

☐

(7) 増築計画

☐無 ()

☐無

(8) 付帯工事

☐門塀☐擁壁☐

☐

☐

(9) 特別な荷重

☐2階倉庫部分積載荷重 床用：3900N/㎡、柱・梁・基礎用：3150N/㎡、地震用：2550N/㎡

☐ソーラーパネル自重 床用：220N/㎡、柱・梁・基礎用：220N/㎡、地震用：220N/㎡

(10) 積雪荷重

区 域

☐一般地域

☒多雪地域

垂直積雪量 120 cm

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

使用箇所	種類	設計基準強度 Fc=N/mm ²	スランプcm	備考
■捨てコンクリート	普通	15		
☐ 床版コンクリート	普通			
■基礎、基礎梁	普通	21	18	
☐ 柱、梁、壁、庇、階段	普通	18	18	
☐ デッキプレート	普通	18	18	
■土間・防湿コンクリート	普通	21	18	

(2) コンクリートブロック (CB)

☐A種☐B種☐C種

厚 ☐100 ☐120 ☐150 ☐190

(3) 鉄筋

	種類	径	使用箇所	継ぎ手工法
異形鉄筋	■SD295A	D10-D16	基礎	■重ね継ぎ手 D16以下
	☐ SD295B			☐ ガス圧接継ぎ手 D19以上
	☐ SD345	D19以上	基礎	
	☐			
丸鋼	☐ SD345			☐ 特殊継ぎ手
溶接金網	☐			()

(4) 鉄骨

	種類	使用箇所	現場溶接	備考
鋼材	☐ SS400 ☐ SM400B.C	大梁・小梁	☐ 有 ☐ 無	
	☐ STKR400 ☐ BCR295	柱・小梁	☐ 有 ☐ 無	
	☐ SN490	大梁	☐ 有 ☐ 無	
	☐ SSC400	雑部	☐ 有 ☐ 無	

(5) ボルト

☐高力ボルト☐普通、F10T☐特殊、S10T認定品 (☐M12、☐M16、☐M20、☐M22)

■中ボルト M12 ～ M16

高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☐否

■アンカーボルト

M16 L=800mm ナット (ダブル)

■アンカーボルト

M12 L=450mm ナット (ダブル)

☐スタッドボルト

φ= L= mm

(6) 屋根、床、壁

使用箇所

☐ALC版

厚

☐折版

SV-2 H=165 厚: 0.8

☐デッキプレート

型式: QL99-50-12 厚: 1.2

☐キーストンプレート

型式

☐特殊デッキプレート

■※ 屋根・外壁は、各部仕上げ表参照

3. 地盤

(1) 地盤調査資料

☐有 (☐敷地内 ☐近隣)

☐ボーリング調査

☐平板載荷試験

☒スエーデン式サウンディング

☒無 (調査予定

☒有 ☐無)

☐

(2) 地盤調査計画

☐ボーリング調査

☐静的貫入試験

☐標準貫入試験

☐水平地盤反力係数の測定

☐土質試験

☐物理探査

☐平板載荷試験

☐スエーデン式サウンディング

(3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある

(4) ボーリング標準貫入値、土質構成 ※別資料による。

深度 (m)	土質	N値	標準貫入試験						調査地番	
			10	20	30	40	50	60		
1	盛土	4								○調査地番
2		2								
3		2								
4		3								
5		3								
6		3								
7		3								
8	粘性土	3								
9		4								
10		3								
11		3								
12		4								
13		4								
14		7								
15		9								
16		14								
17		19								
18		11								
19		29								
20		19								
21		25								
22	細砂	28								
23		34								
24		36								
25		42								
26		44								
27		46								
28										

○孔内水位

○近隣データの調査地番と設計地番とは m の距離がある

○備考

4. 地業工事

(1) 直接基礎 (表層改良工法による地盤補強を想定)

☐ベタ基礎

☒布基礎 (F1～F2)

☐独立基礎

試験堀 ☐有 ☐無

長期許容支持力: F1～F2 40.0kN/㎡

支持層: 砂質土層

載荷試験 ☐有 ☒無

(2) 杭基礎

支持層:

支持レベル:

(m)

杭種	材料	施工法	備考
☐RC ☐PHC ☐HB ☐鋼管 ☐鋼管 ☐摩擦杭 ☐BF	PHC (☐A種 ☐B種 ☐C種) HB (☐A種 ☐B種 ☐C種) 鋼材 ☐SS400 ☐STK400	☐ハイビーエム (H・B・M) 工法 ☐オールケーシング ☐拡底杭 ☐リバースサーキュレーション ☐アースドリル ☐ミニアース ☐手堀 ☐機械掘	α=400 (先端支持力係数)
☐場所打ちコンクリート杭	コンクリートセメント量 kg/㎡ 鉄筋 主筋 HOOP	☐オールケーシング ☐拡底杭 ☐リバースサーキュレーション ☐アースドリル ☐ミニアース ☐手堀 ☐機械掘	

杭仕様 ☐施工計画書承認 ☐杭施工結果報告書

試験杭 (☐有・ ☐無) (☐打ち込み・ ☐載荷) 本

杭径 (mm)	長期設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

合計本数

5. 鉄筋コンクリート工事

(1) コンクリート

☒コンクリートは JIS 認定工場の製品とし施工に関しては JASS5 による。

☒セメントは、JIS R5210 の普通ポルトランドセメントを標準とする。

調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。

寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。

☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。

測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。

☒構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体 (JASS5 T-603) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。

また、打ち込み量が 150m³ をこえる場合は 150m³ ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。

一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬者車からその必要本数を採取する。

なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当り9本以上とし、その内4適用に3本を用いる。

☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が 25℃ 未満の場合は 150分、25℃ 以上の場合は 120分以内とする。

(2) 鉄筋

☒鉄筋は JIS G3112 の規格品を標準とする。

☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継ぎ手位置、継ぎ手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。

☒D19未満は、すべて重ね継ぎ手とする。継ぎ手 (D19以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。

☒ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回の試験は5本以上とする。

外観検査 ☒有 ☐無、引張試験 ☒有 ☐無、超音波探傷試験 ☐有 ☒無、

☐柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は ☐H型 (タガ型) ☐W型 (溶接型) ☐S型 (スパイラル型) とする。

☒コンクリート及び鉄筋の試験は公的試験機関で行う。

試験機関名 未定

代行業者名

代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

(3) 型枠

☒材料 合板厚 12mm/m を標準とする。 ☐

☒型枠存置期間

6. 鉄骨工事

(1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

☒日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」

☒鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

構造仕様書: S-02～S-07

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

☒製作工場

☒製作要領書

☒工作図

☒施工計画書

☐建設省告示第1103号による認定工場 (大臣認定 グレード県登録 ランク)

☒材料規格証明書または試験成績書

☒鋼材

☒高力ボルト

☐特殊ボルト

☐スタッドボルト

☒社内検査表

☐

☐

(3) 工事監理者が行う検査項目

(☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)

☒現寸検査

☒組立・開先検査

☒製品検査

☒建方検査

☐

☐

(4) 接合部の溶接は下記によること

☒東京都アーク溶接工事管理基準 (建築構造設計指針第12章) ※参照

☒鉄骨造等の建築物の工事に關する東京製鋼取扱要綱 (建築構造設計指針第12章) ※参照

☒日本建築学会「溶接工作基準、同解説1、2、3、4、5、6、7、8、9」

(5) 接合部の検査

☒溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		柱内	第三者	工事監理者	
☒突合せ溶接 ☐ ☐	超音波探傷試験	100%	30%		※平成12年通告第1464号第二号による。(目視及び計測)
	外観 (目視) 検査	100%	100%		
	マクロ試験・その他	個	個	個	
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。 注) 現場溶接については原則として第三者による全数検査を行うこと。					
☒高力ボルトは「JIS B186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを座金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グライNDER掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただしショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。 ☒高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として2度締めとする。 (6) 防錆塗装 ※打ち合わせによる ☒防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めペイントは、JIS K5674、2回塗り (工場1回) を標準とする。 ☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。 (7) 耐火被覆の材料 ☐吹付けロックウール					

7. 設備関係

☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。

☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。

☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。

8. その他

☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。

☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。

☒給湯設備は風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造とすること。(令第129条の2の4)

統括 株式会社さくら設計

新潟県胎内市新和町2番4号 電話 (0254) 44-8250番 (代表)

1級建築士事務所 新潟県知事登録 (リ) 第1743号

1級建築士登録番号 第224282号 小林 敏徳

統括

作図者

1級建築士登録番号 第321780号

阿部 竜也

縮尺

A1版: S=1/Na

A3版: S=1/Ne

設計年月日

2024.06

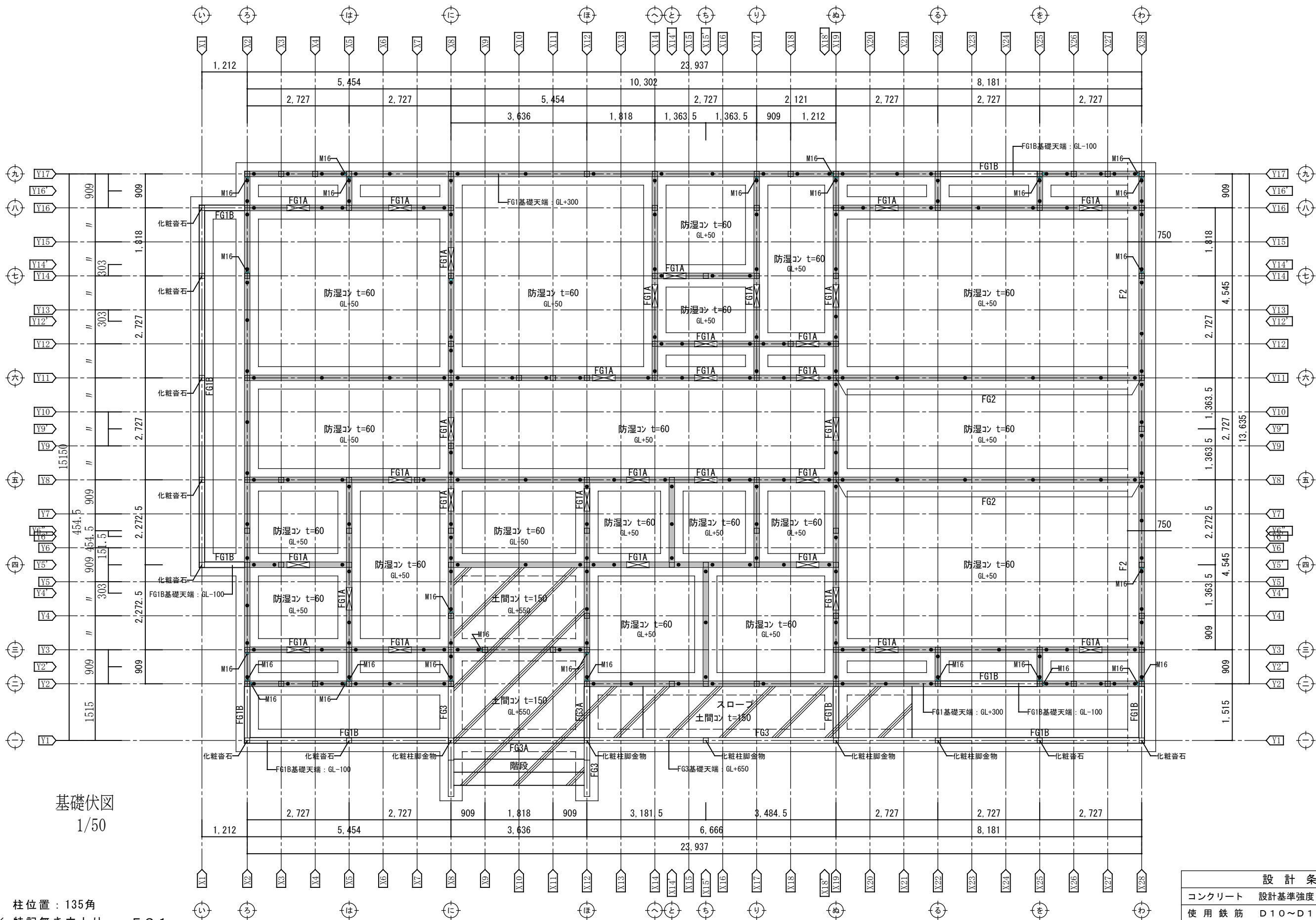
工事名称

村松浜集落センター新築工事

図面名称

構造設計標準仕様

No. S-01



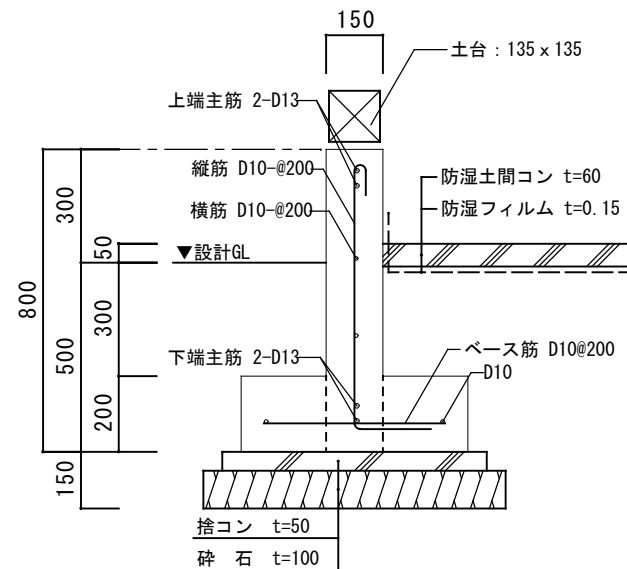
基礎伏図
1/50

- 柱位置：135角
※ 特記無き立上り：FG1
※ 特記無き立上り巾：150
※ 特記無きベース巾：600 (F1)
※ 地中梁など端部での主筋定着40d以上
(重ね継手は40d以上)

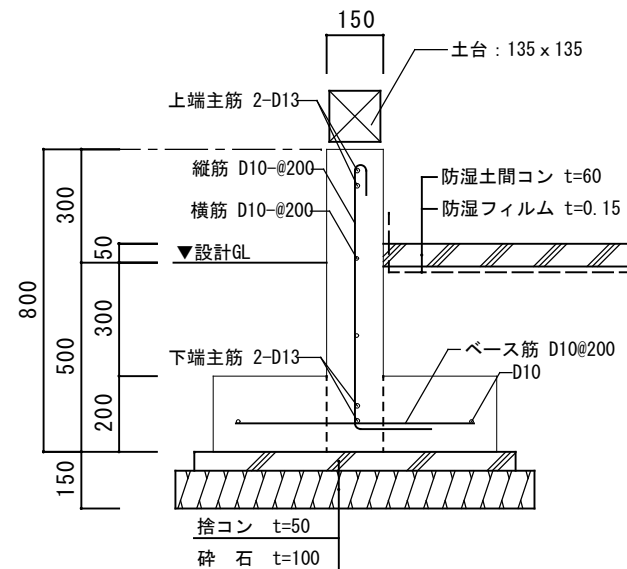
- ※ M12-A-BOLT：埋込み長さ…25cm (柱芯から200mm以内)
他に土台継手上木側にM12を配置する。
※ M16-A-BOLT：埋込み長さ…36cm (120角：柱芯から92mm)
金物仕様等によりアンカー芯までの距離に注意する。

設計条件	
コンクリート	設計基準強度 $F_c=21\text{N/mm}^2$
使用鉄筋	D10~D16：SD295A D19~：SD345

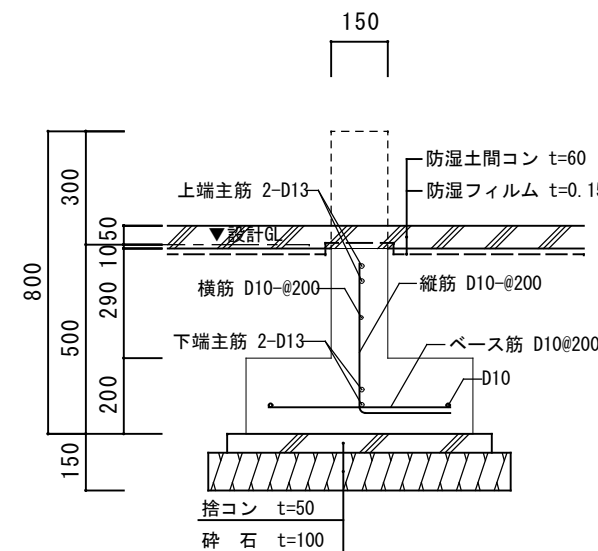
※JASS5 (最新年度版) による。
※設計用長期支持力：40.0kN/m²
(地盤改良後の支持力：表層改良を想定)



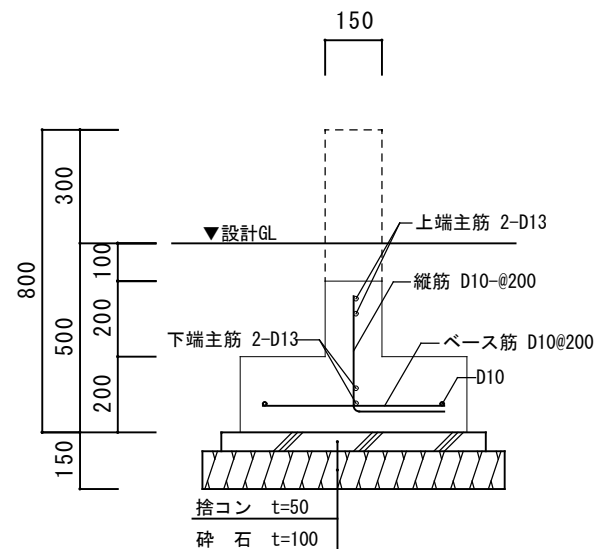
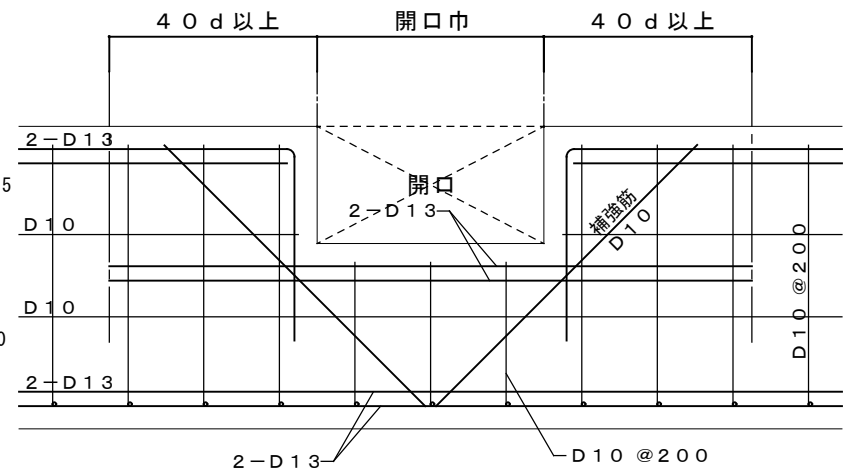
基礎立上り S=1/10
F 1 ・ F G 1



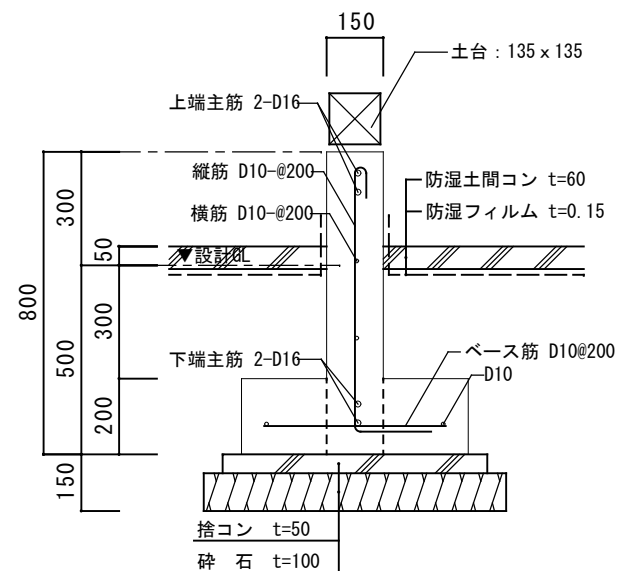
基礎立上り S=1/10
F 2 ・ F G 1



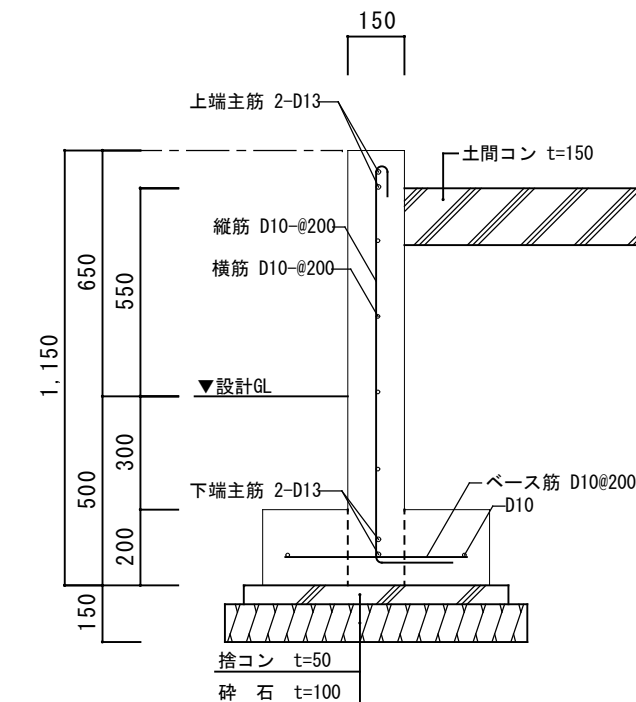
F G 1 A 部分 断面・側面詳細図 S=1/10



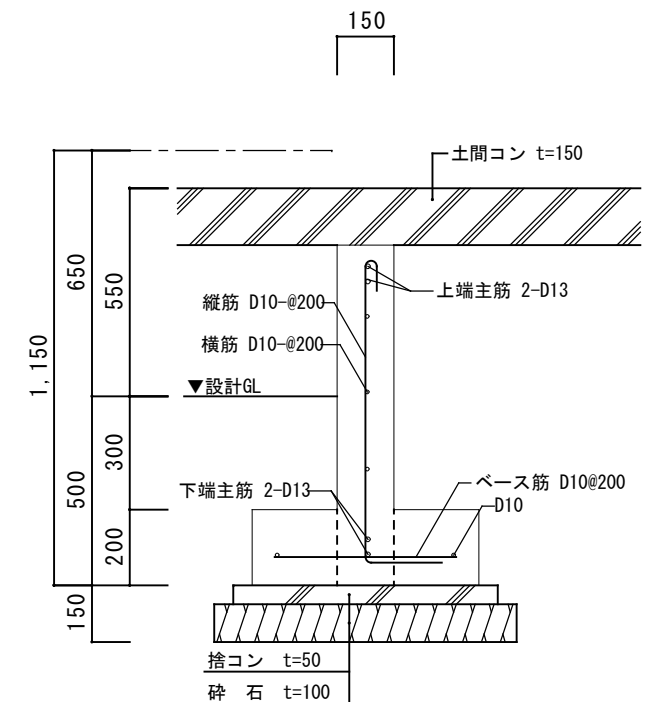
基礎立上り S=1/10
F 1 ・ F G 1 B



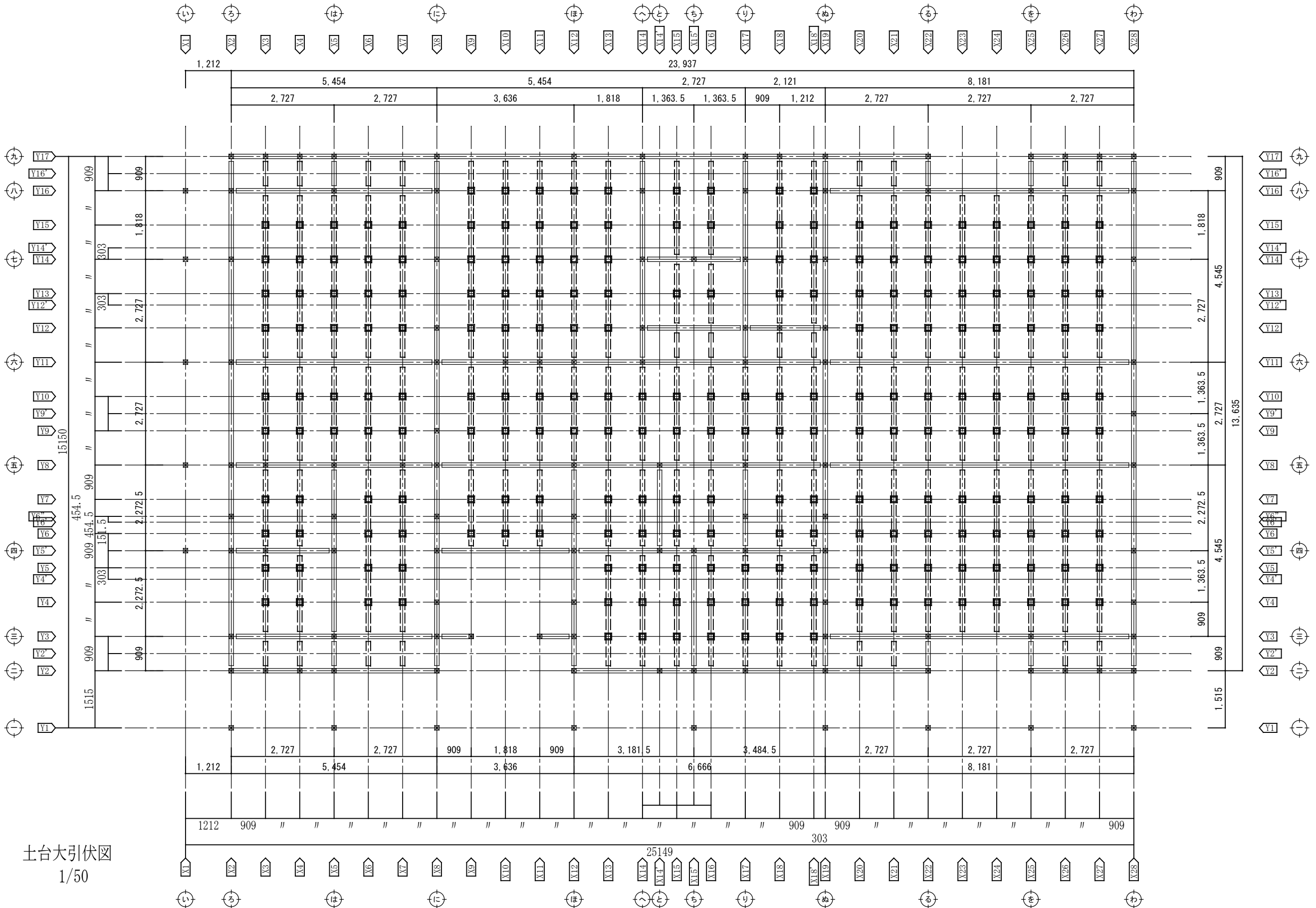
基礎立上り S=1/10
F 1 ・ F G 2



基礎立上り S=1/10
F 1 ・ F G 3



基礎立上り S=1/10
F 1 ・ F G 3 A



土台大引伏図
1/50

特 記

特記無き土台 材種は 桧：無等級 とする (135角)
特記無き大引 材種は 杉：無等級 とする (105角)
特記無き柱 材種は 杉：無等級 とする (135角)
特記無き梁 材種は 杉：無等級 とする (又は機械等級E70以上)
特記無き梁の梁巾 135とする

梁 材種 ◇ は E150-F435 とする (米松集成材)

床根太 材種は 米松：無等級 とする (45 x 60 @ 303：転ばし仕様)
垂木 材種は 米松：無等級 とする (60 x 90 @ 303：タルキックⅡ仕様)
床・屋根面の面材、構造用合板 12 mm (根太及び垂木 @ 303：釘・・・N50、間隔150mm)

外周部横架材接合部仕様

A：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト、又は、短冊金物
B：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2
C：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋ビス止め短ざく (BS-S240又はBS-L360) × 2

株式会社さくら設計

新潟県胎内市新和町2番4号 電話 (0254) 44-8250番 (代表)
1級建築士事務所 新潟県知事登録 (リ) 第1743号
1級建築士登録番号 第224282号 小林 敏徳

作 図 者

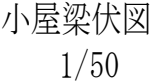
1級建築士登録番号 第321780号
阿 部 竜 也

縮 尺

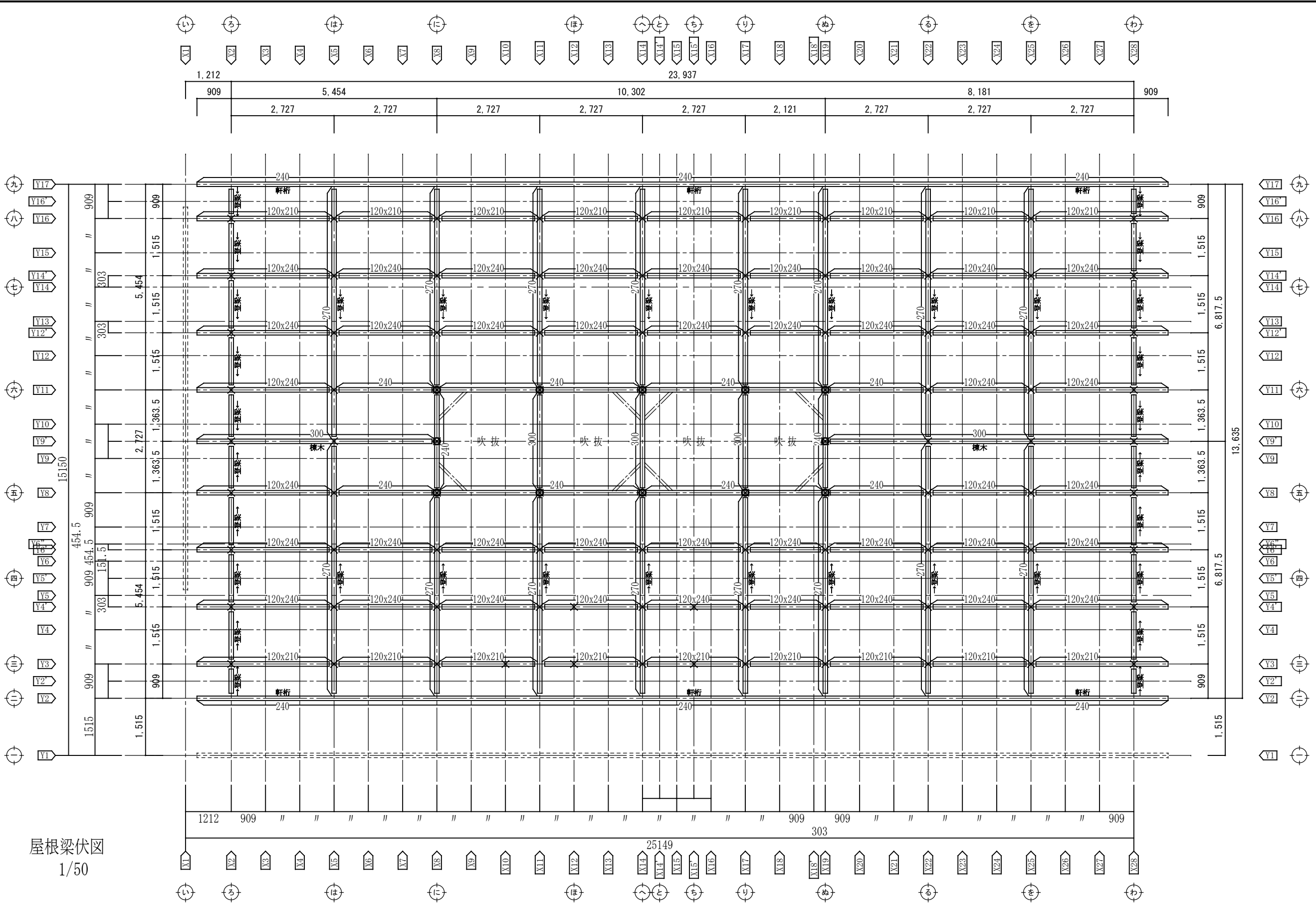
A1版：S=1/50
A3版：S=1/100
設計年月日
2024.06

工事名称 村松浜集落センター新築工事

図面名称 土台大引伏図



A：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト、又は、短冊金物
B：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2
C：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋ビス止め短ざく（BS-S240又はBS-L360）×2



屋根梁伏図
1/50

特 記

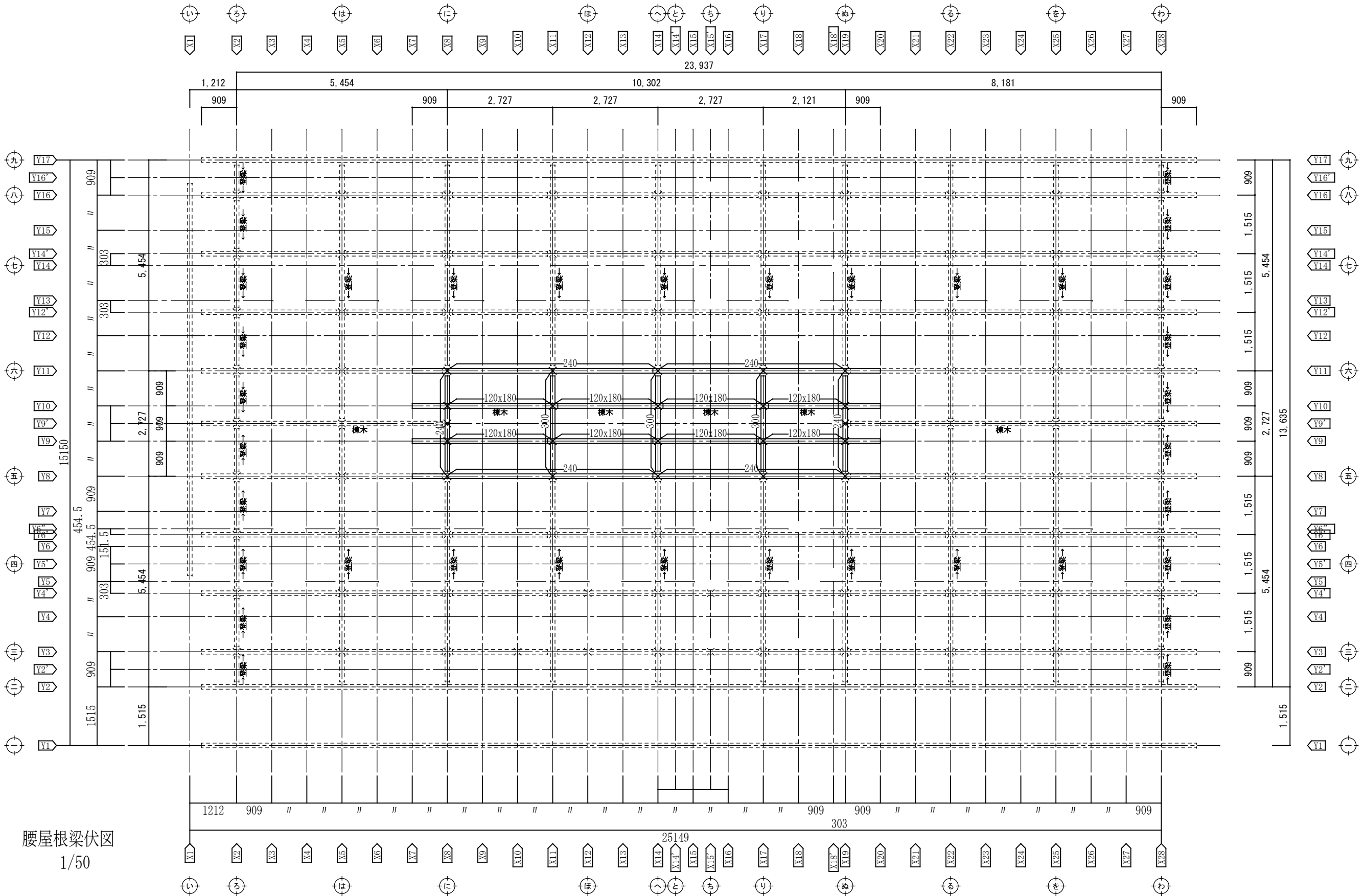
特記無き土台 材種は 桧：無等級 とする (135角)
特記無き大引 材種は 杉：無等級 とする (105角)
特記無き柱 材種は 杉：無等級 とする (135角)
特記無き梁 材種は 杉：無等級 とする (又は機械等級E70以上)
特記無き梁の梁巾 135とする

梁 材種 ◇ は E150-F435 とする (米松集成材)

床根太 材種は 米松：無等級 とする (45 x 60@303：転ばし仕様)
垂木 材種は 米松：無等級 とする (60 x 90@303：タルキックⅡ仕様)
床・屋根面の面材、構造用合板 12 mm (根太及び垂木@303：釘…N50、間隔150mm)

外周部横架材接合部仕様

A：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト、又は、短冊金物
B：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2
C：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋ビス止め短ざく (BS-S240又はBS-L360)×2



腰屋根梁伏図
1/50

特 記

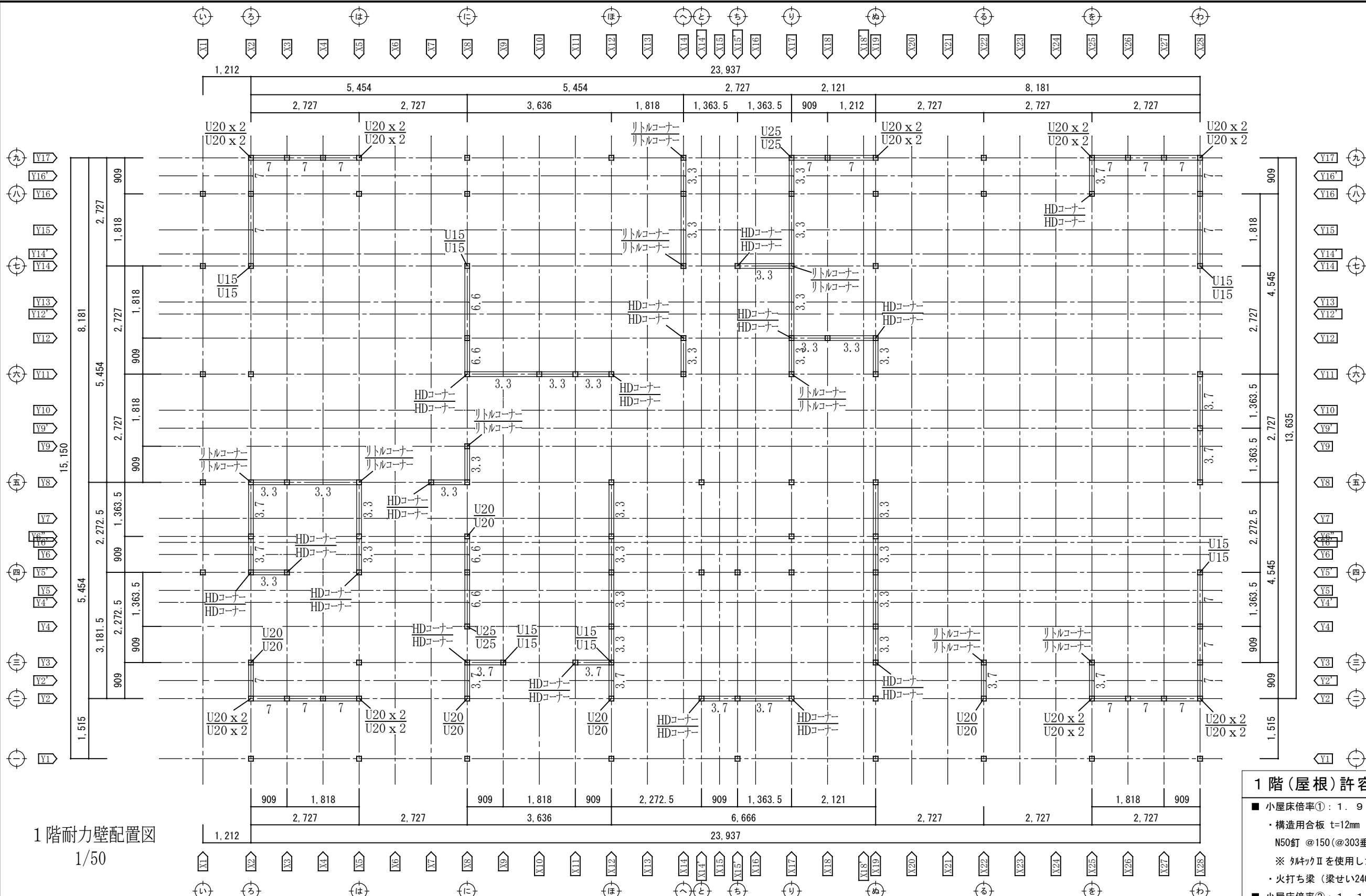
特記無き土台 材種は 桧：無等級 とする (135角)
特記無き大引 材種は 杉：無等級 とする (105角)
特記無き柱 材種は 杉：無等級 とする (135角)
特記無き梁 材種は 杉：無等級 とする (又は機械等級E70以上)
特記無き梁の梁巾 135とする

梁 材種 < は E150-F435 とする (米松集成材)

床根太 材種は 米松：無等級 とする (45 x 60@303：転ばし仕様)
垂木 材種は 米松：無等級 とする (60 x 90@303：タルキックⅡ仕様)
床・屋根面の面材、構造用合板 1 2 mm (根太及び垂木@ 3 0 3：釘・・・N50、間隔150mm)

外周部横架材接合部仕様

A：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト、又は、短冊金物
B：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋羽子板ボルト×2、又は、短冊金物×2
C：腰掛け蟻、もしくは、大入れ蟻掛け＋ビス止め短ざく (BS-S240又はBS-L360)×2



1階耐力壁配置図
1/50

金物の表記		1階		
	耐力	柱脚	柱頭	合計
① : リトルコーナー	6.000	9	9	18
② : HDコーナー	10.000	16	16	32
③ : U15	15.000	6	6	12
④ : U20	20.000	5	5	10
⑤ : U25	25.000	2	2	4
⑦ : U20 x 2	40.000	9	9	18

	壁倍率 3.3 倍	・ 構造用合板 厚さ9mm片面貼り (真壁納まり) CN50釘 外部@75、内部@150 (3.3倍仕様)	昭56建告1100号
	壁倍率 3.7 倍	・ 構造用合板 厚さ9mm片面貼り (大壁納まり) CN50釘 外部@75、内部@150 (3.7倍仕様)	昭56建告1100号
	壁倍率 6.6 倍	・ 構造用合板 厚さ9mm両面貼り (真壁納まり) CN50釘 外部@75、内部@150 (3.3倍仕様)	昭56建告1100号
	壁倍率 7.0 倍	・ 構造用合板 厚さ9mm片面貼り (真壁納まり : 3.3倍仕様) ・ 構造用合板 厚さ9mm片面貼り (大壁納まり : 3.7倍仕様)	昭56建告1100号

※ 構造計算上、引き抜きが生じた箇所のみの金物を特記する。
※ 金物は同等耐力品以上とする。(メーカー問わず)
※ 面材耐力壁の真壁納まり部分のホールダウン金物等において、
必要に応じて「枠材用ホールダウン」に適宜置き換えることとします。
(枠材用ホールダウンを使用する場合はM167ヶ所位置に注意すること)

- Y17 九
- Y16' 八
- Y16 八
- Y15
- Y14' 七
- Y14 七
- Y13
- Y12' 六
- Y12 六
- Y11 六
- Y10
- Y9' 五
- Y9 五
- Y8 五
- Y7
- Y6' 四
- Y6 四
- Y5' 四
- Y5 四
- Y4' 三
- Y4 三
- Y3 三
- Y2' 二
- Y2 二
- Y1

1階(屋根)許容せん断耐力仕様

■ 小屋床倍率① : 1.96倍 (剛性 : 3.84kN/m)

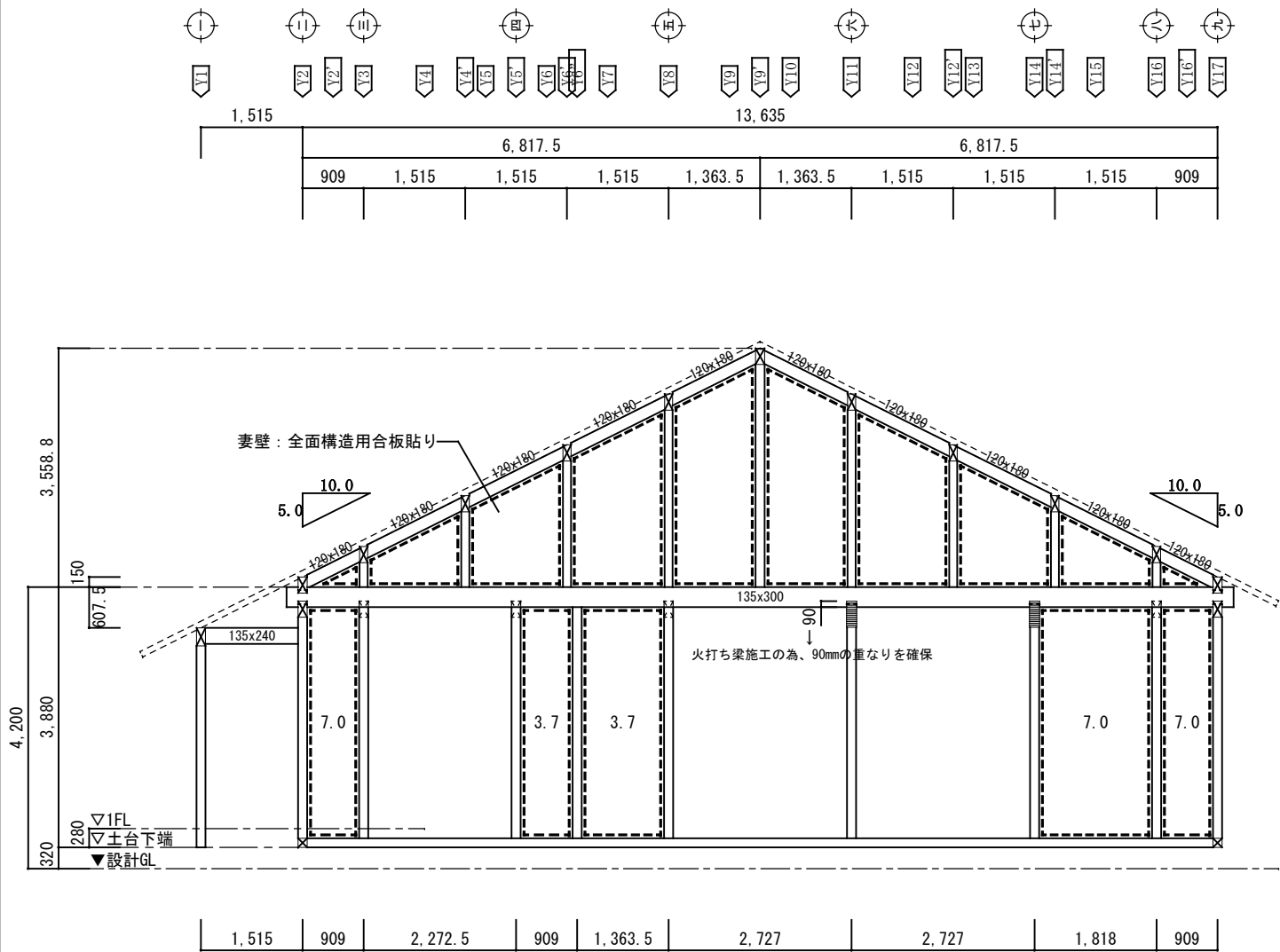
・ 構造用合板 t=12mm (転び止め無し) (5/10勾配)
N50釘 @150 (@303垂木へ) 打ち : 1.16倍 (2.27kN/m)
※ タルキッⅡを使用した水平構面耐力
・ 火打ち梁 (梁せい240mm、2.5㎡以下) 0.80倍 (1.57kN/m)

■ 小屋床倍率② : 1.16倍 (剛性 : 2.27kN/m)

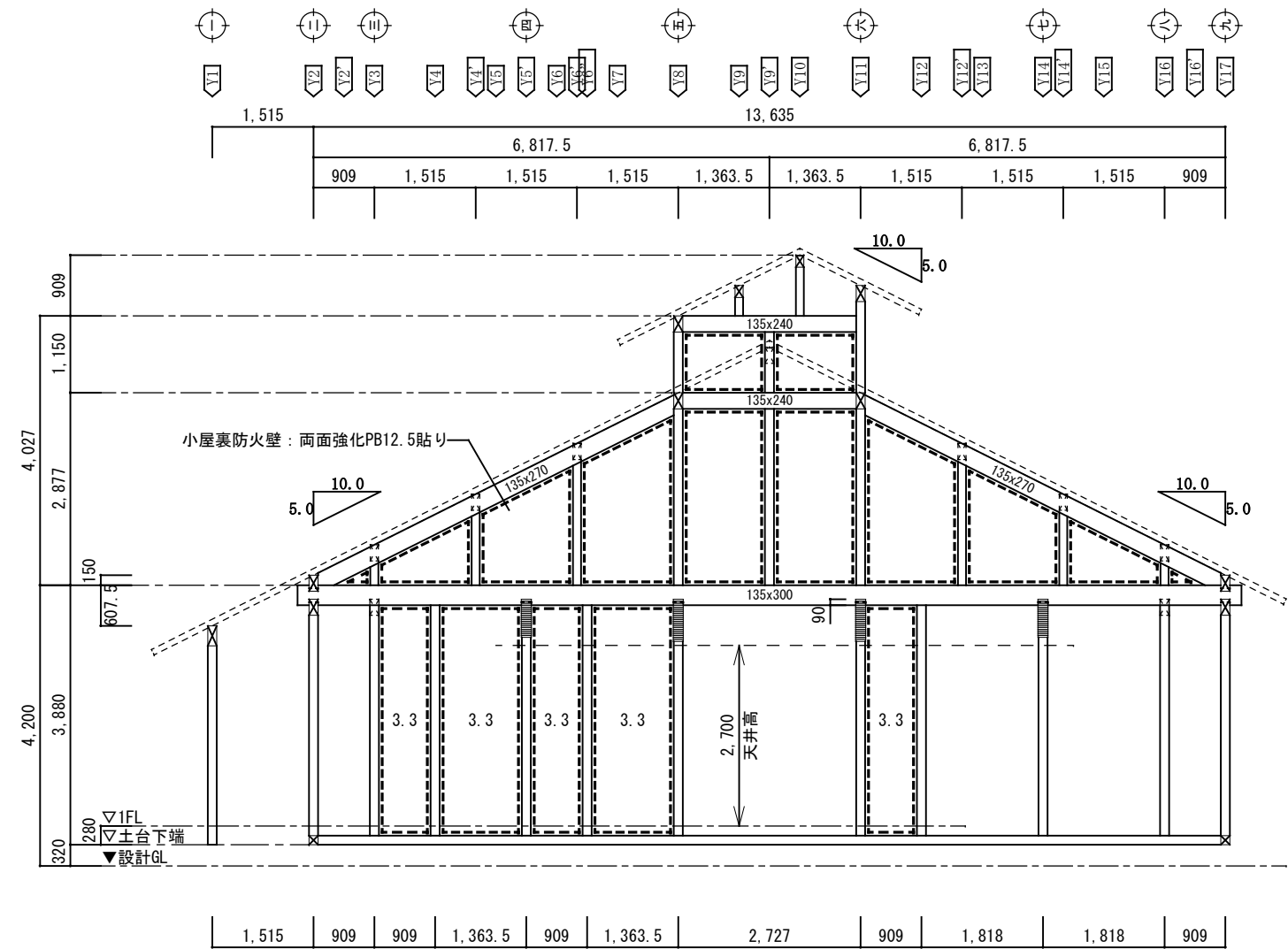
・ 構造用合板 t=12mm (転び止め無し) (5/10勾配)
N50釘 @150 (@303垂木へ) 打ち : 1.16倍 (2.27kN/m)
※ タルキッⅡを使用した水平構面耐力

● タルキッⅡを使用した水平構面耐力 (HP評価(木)-19-005)

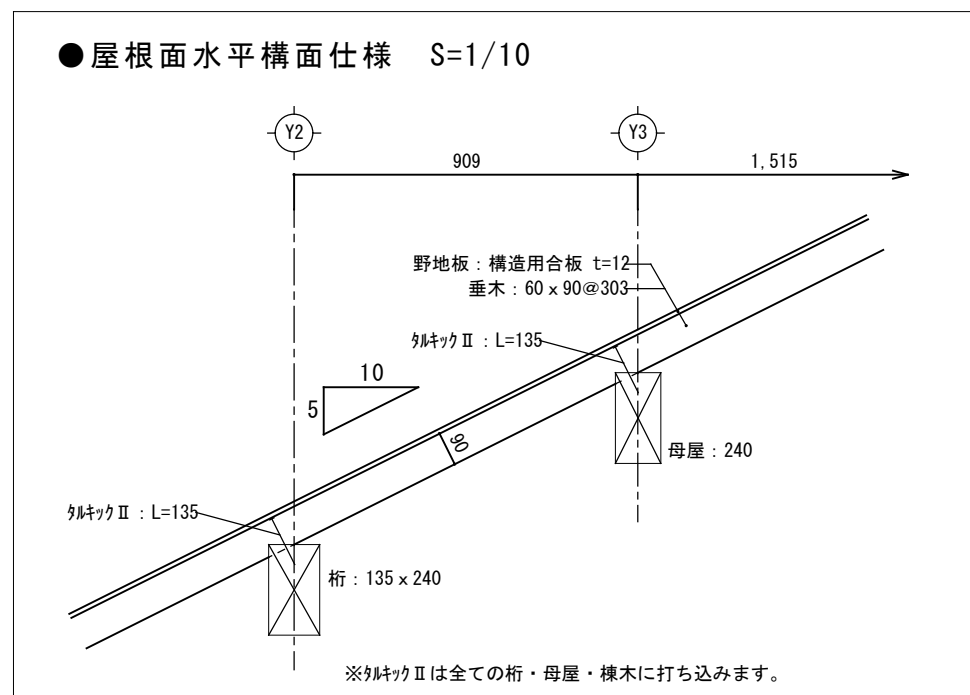
標準耐力 : 勾配=0、垂木@455 → 1.96kN/m
標準耐力 : 勾配=0、垂木@303 → 2.54kN/m
標準耐力 : 勾配=0、垂木@227.5 → 2.94kN/m
勾配 5/10 → COS θ=0.894 (標準耐力から勾配低減)
垂木@303 の場合 : 2.54×0.894 = 2.27 (kN/m)
※ 対応する垂木のせいは90mmまでとします (巾は45mm以上)

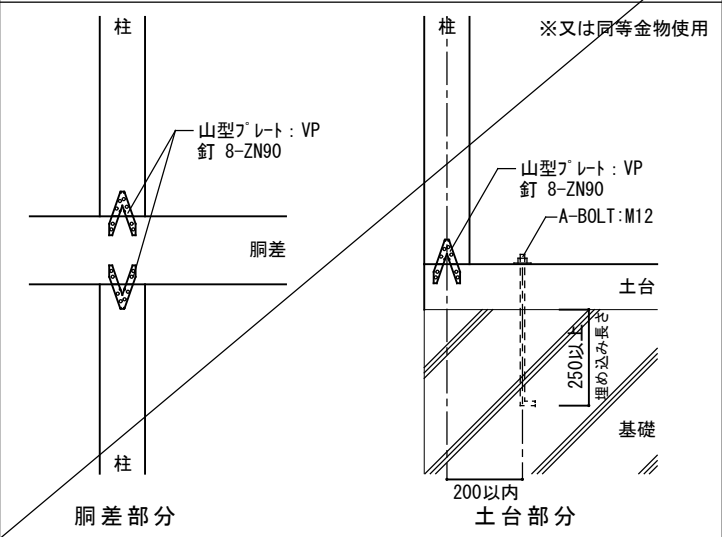
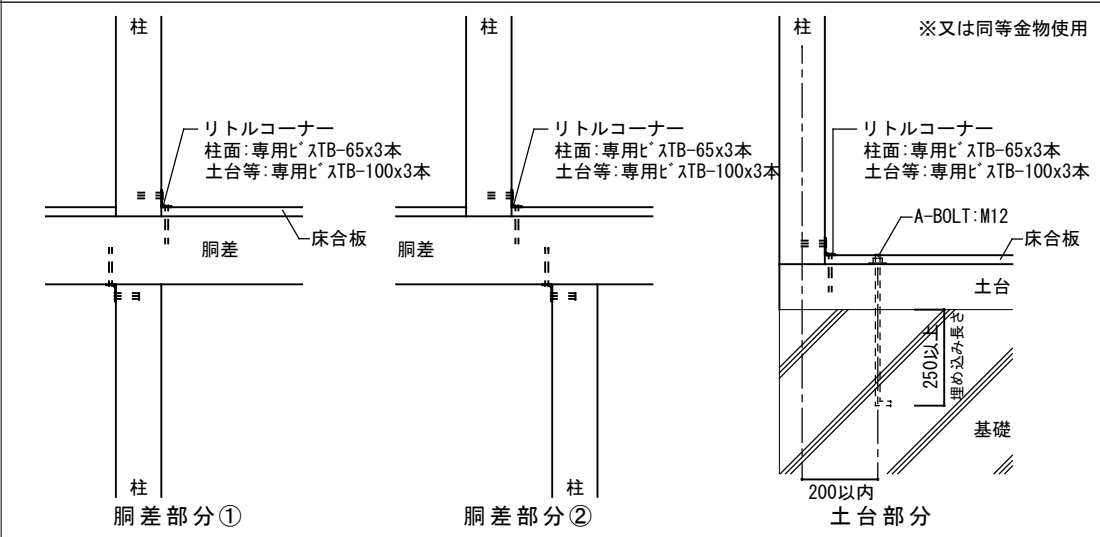
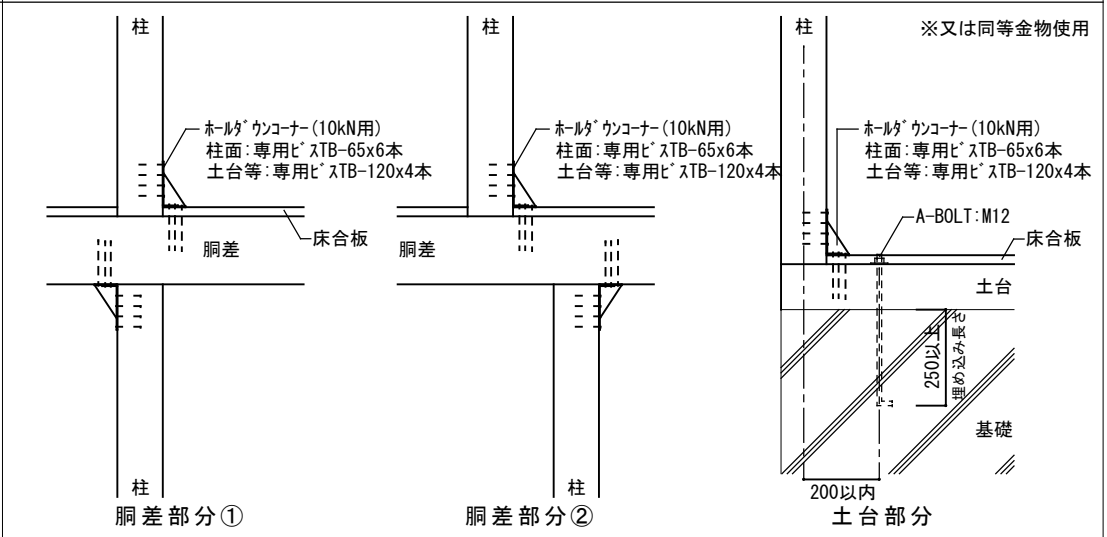
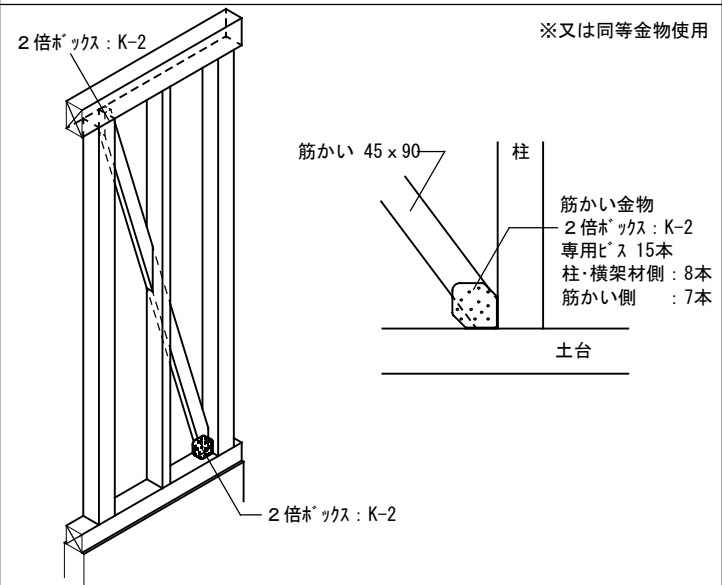
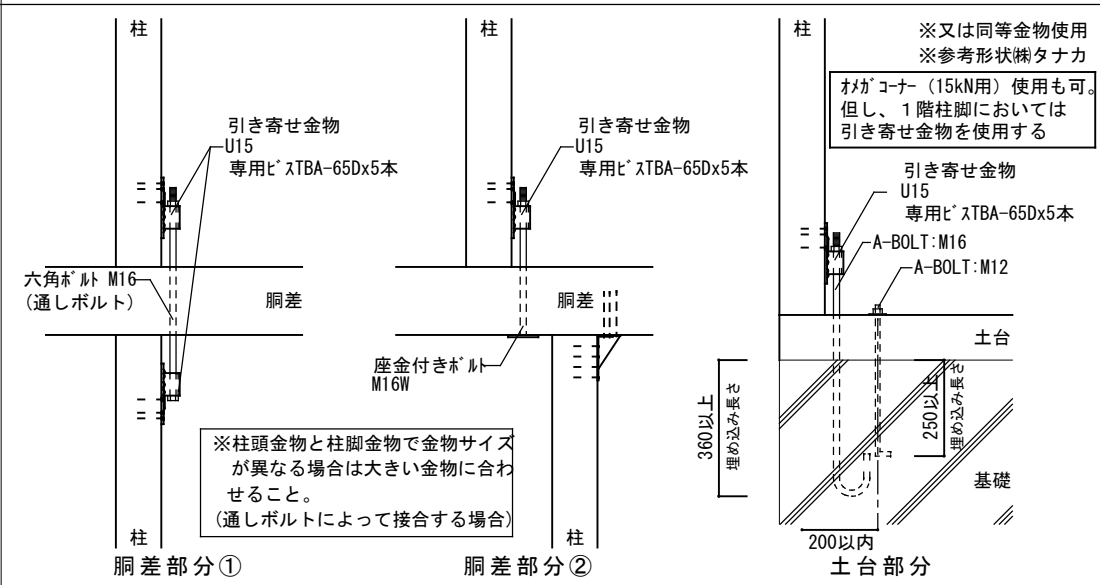
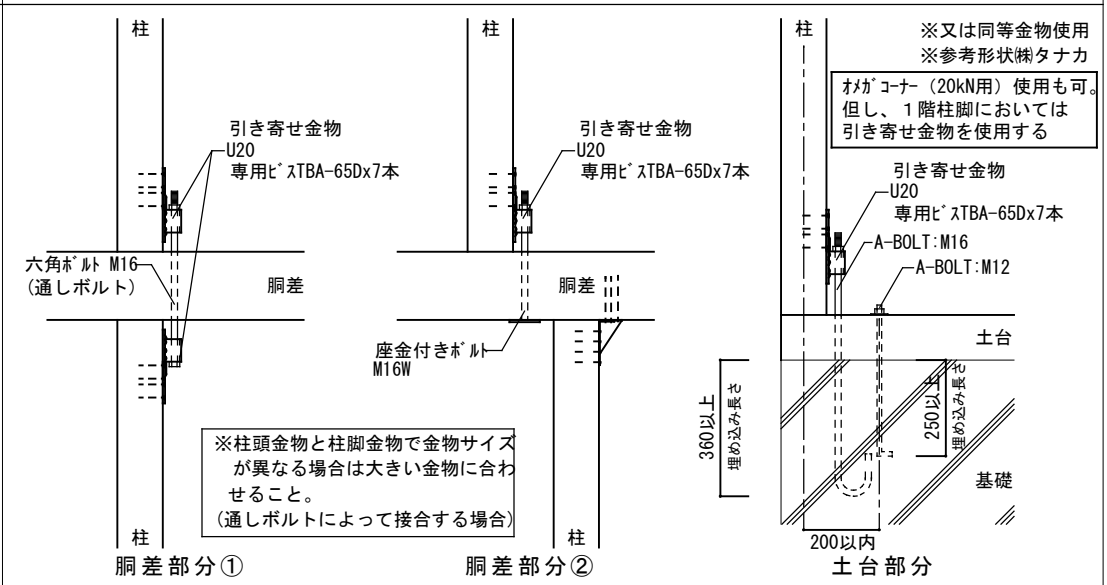
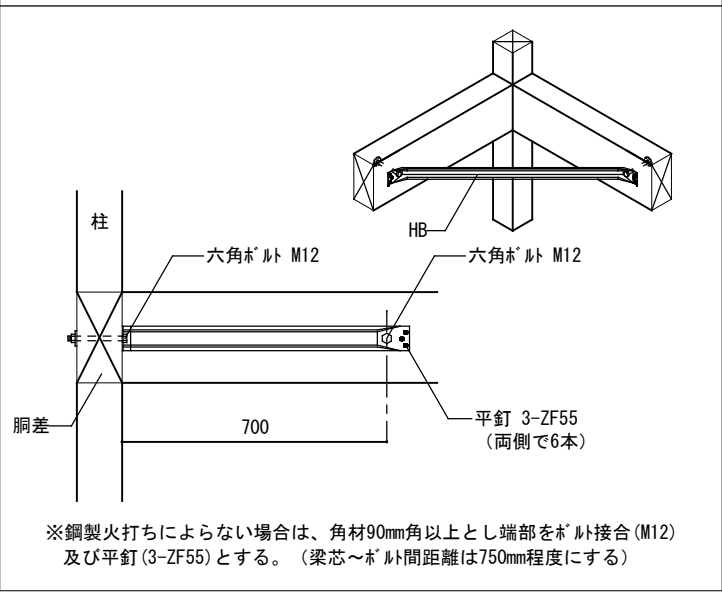
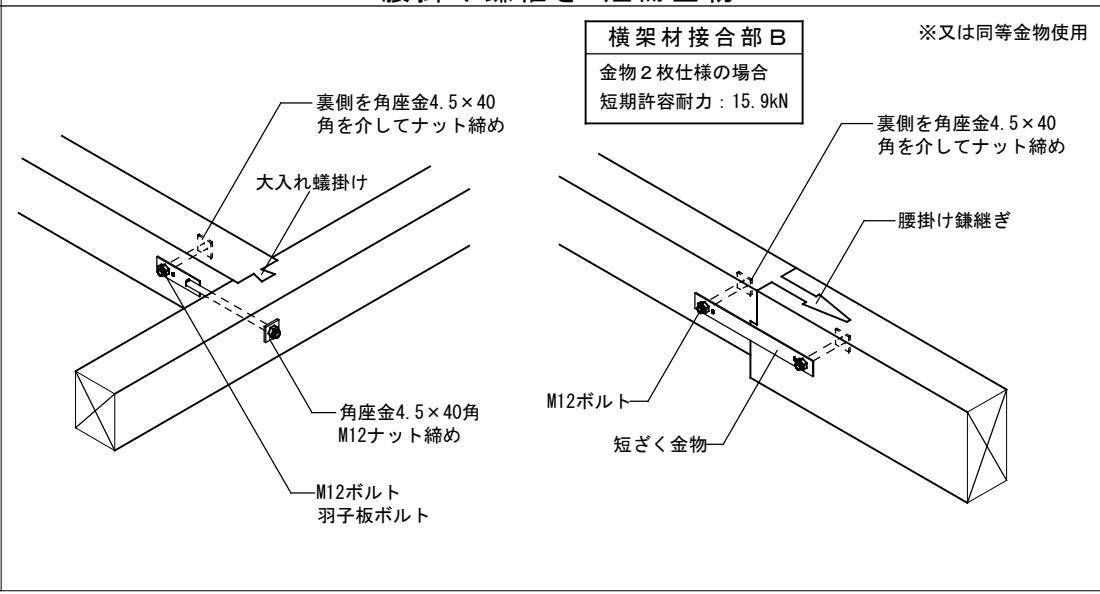
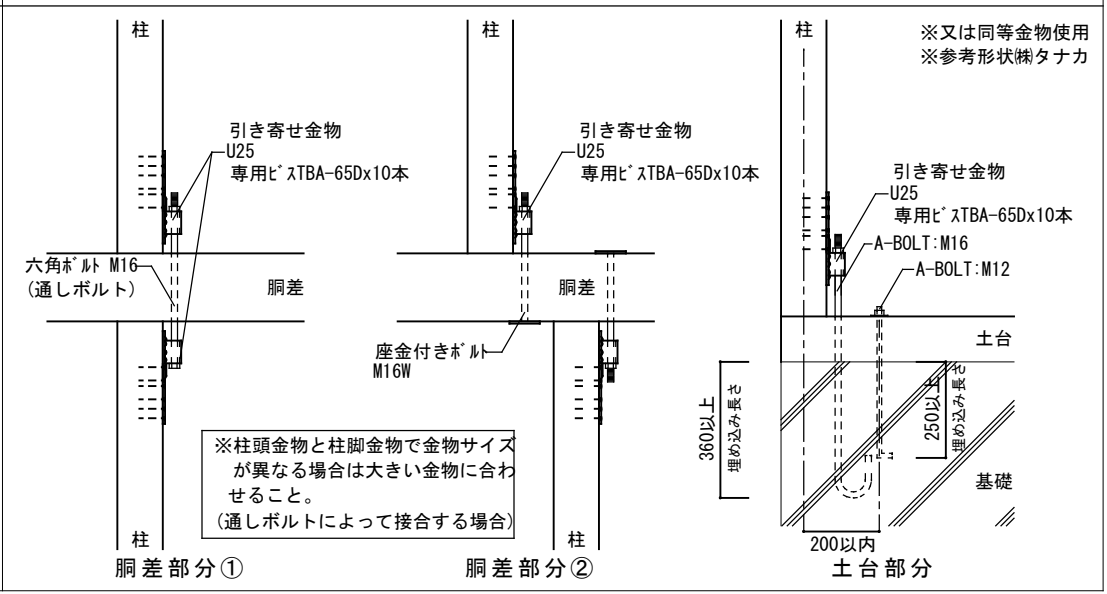


X 2通り軸組図 S=1/50



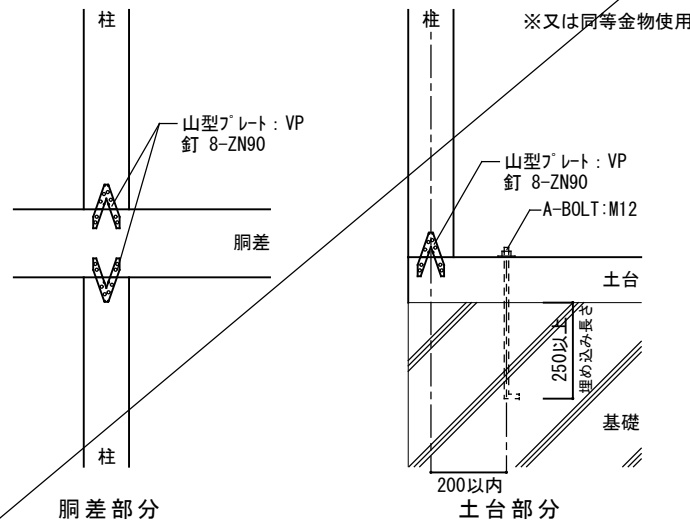
X 19通り軸組図 S=1/50



山型プレート：VP Zマーク表示金物 短期許容耐力：3.92kN 	引き寄せ金物：リトルコーナー床合板仕様 Sマーク表示金物 短期許容耐力：6.2kN 	引き寄せ金物：ホルダウコーナー床合板仕様 Sマーク表示金物 短期許容耐力：11.5kN 
筋かい金物：K-2 Zマーク同等認定金物 2倍ボックス：K-2 	引き寄せ金物：U15 Sマーク表示金物 短期許容耐力：15.0kN 	引き寄せ金物：U20 Sマーク表示金物 短期許容耐力：20.0kN 
火打ち金物：HB Zマーク表示金物  ※鋼製火打ちによらない場合は、角材90mm角以上とし端部をボルト接合(M12)及び平釘(3-ZF55)とする。(梁芯〜ボルト間距離は750mm程度にする)	横架材接合部A 大入れ蟻掛け+羽子板ボルト 腰掛け鎌継ぎ+短冊金物 Zマーク表示金物 短期許容耐力：10.1kN 	引き寄せ金物：U25 Sマーク表示金物 短期許容耐力：25.0kN 

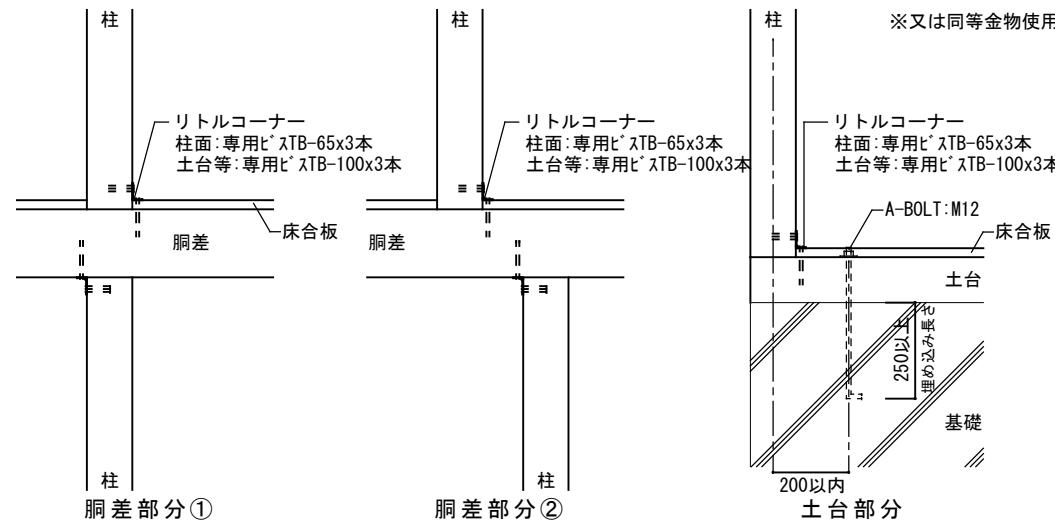
山型プレート：VP

Zマーク表示金物
短期許容耐力：3.92kN

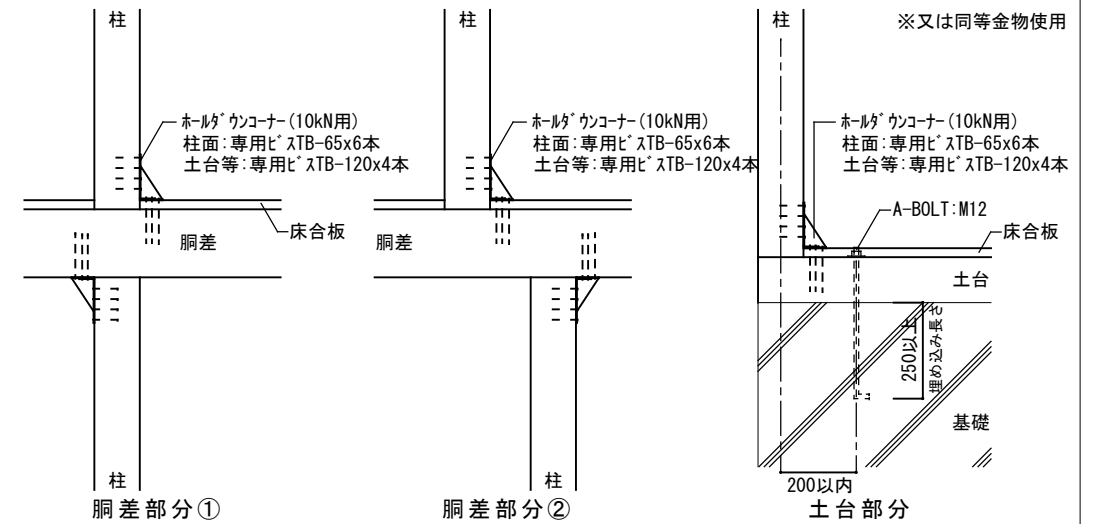


引き寄せ金物：リトルコーナ-床合板仕様

Sマーク表示金物
短期許容耐力：6.2kN

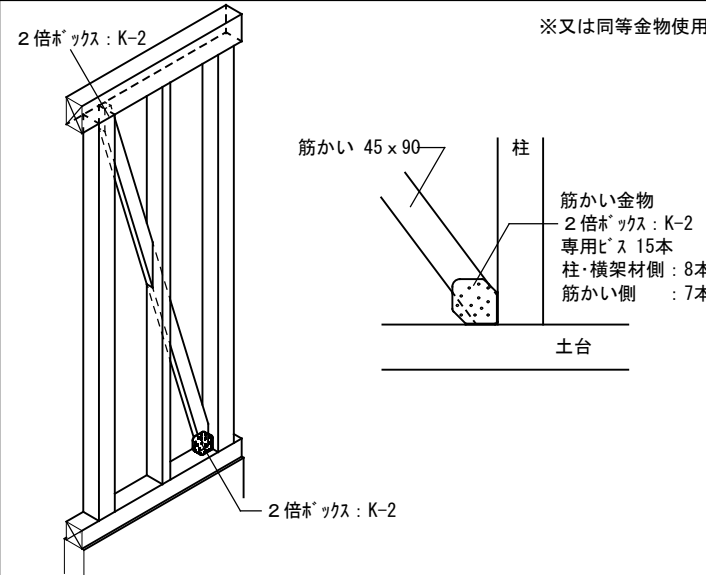
引き寄せ金物：ホルダ[®]ウコーナー床合板仕様

Sマーク表示金物
短期許容耐力：11.5kN



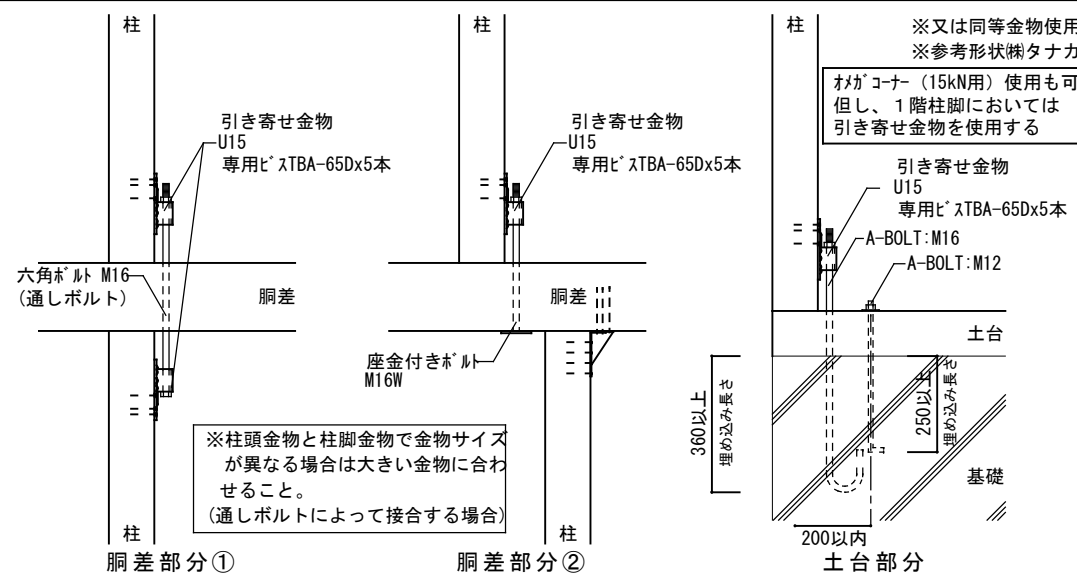
筋かい金物：K-2

Zマーク同等認定金物
2倍ボックス：K-2



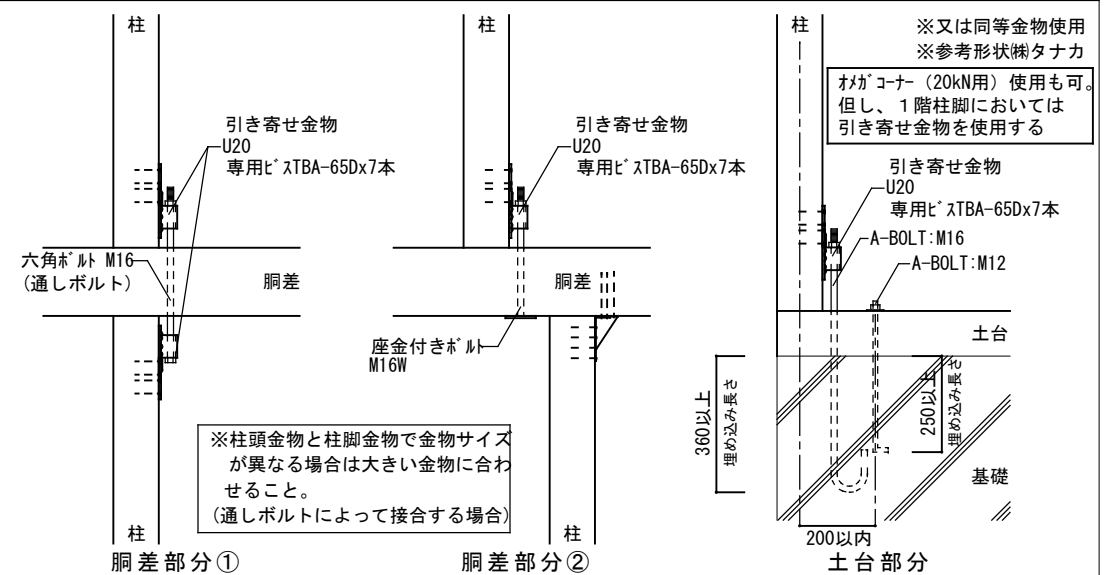
引き寄せ金物 : U 1 5

Sマーク表示金物
短期許容耐力：15.0kN



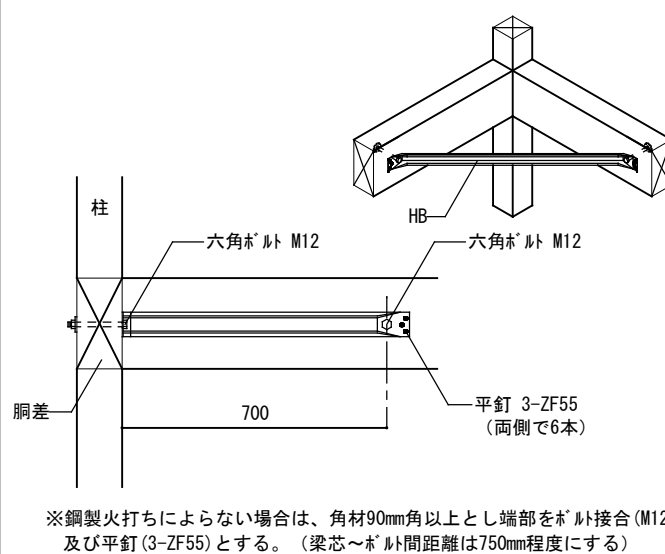
引き寄せ金物 : U 2 0

Sマーク表示金物
短期許容耐力：20.0kN



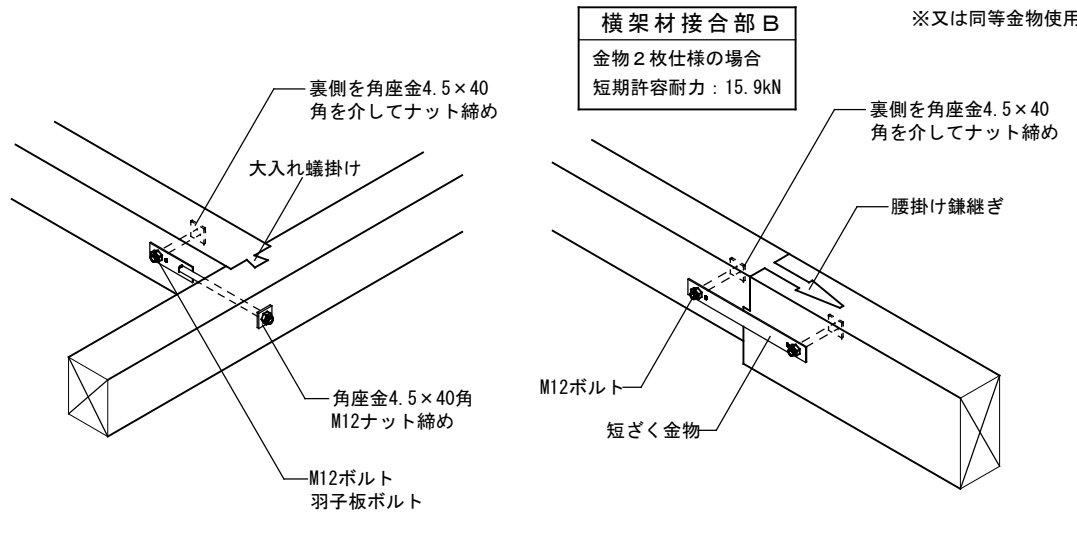
火打ち金物：HB

Zマーク表示金物



横架材接合部 A 大入れ蟻掛け+羽子板ボルト
腰掛け鎌継ぎ+短冊金物

Zマーク表示金物
短期許容耐力：10.1kN



引き寄せ金物 : U 2 5

Sマーク表示金物
短期許容耐力：25.0kN

